

おかげさん



真宗大谷派
高德寺通信



『よきひとに^あ遇う』

～ 遇^{ぐう}・善^{ぜん}知^じ識^{しき} ～



近^{ちか}田^だ昭^{あき}夫^お先生
(顯^{けん}真^{しん}寺^じ住^{じゅ}職^{しやく})

高德寺 報恩講

法話スペシャル

2009. 10. 17

よきひとにあいあう

く 遇^{ぐう} 善^{ぜん}知^ち識^{しき} く

高德寺さんでは毎月のように聞法のつどいも開かれておりますし、その他さまざまなか中行事が行なわれておられると思いますが、一年を通じて最も大切な御仏事^{ごぶつじ}が、今日の報恩講でございます。先程ご住職がお話しされましたように、ひらたい言葉で言うところ命日^{めいじつ}なんです。ご命日と言わないということを非常に強調しておられました。だいたいご命日というと、人が死んだ日ですから、追悼法要とか慰霊祭となっちゃう。今日は報恩講です。報恩講というのは親鸞聖人のご命日をひとつの機縁に仏法に出遇わせていただくという集いがございますけれども、親鸞聖人の慰霊祭ではありませんよ。追悼法要でもないですよ。もし言うなら親鸞聖人感謝祭です。

よ。で、今日これから私のお話しを申し上げたあと、報恩講のご法要が賑賑しく勤まります。それで本堂内陣の正面がご本尊・阿彌陀如来です。今日は親鸞聖人の報恩講というけど、親鸞聖人はどこにいらっしゃいますか？このお堂の中の……どこにいらっしゃいますか？……（沈黙）浄土真宗のお寺はどのお寺へ行っても正面はご本尊の阿彌陀如来^{あみだうし}です。で向かって右側が親鸞聖人の絵像になっております。これだけはひとつ……。私の話は忘れていいからね。（笑）高德寺へ行ったら正面が阿彌陀如来、向かって右が親鸞聖人。これだけは忘れないで帰ってください。他のことはおたれになら結構です。で今日はですね、実はこちらのえ、いつも熱心に「おみげさん」という寺報を手作りで出しておられる副住職のリクエストがございましてね、今回はこういう話をしてほしいと無理難題^{むりなんだい}を仰せ付かっただけです。（笑）それが今日のテーマ「よき人に会う」なんです。そしてサブテーマが「遇善知識」ということです。そこでお配りしましたレジュメをお出ください。こちらの方がありませんね。寺でもらうとすぐ仕舞っちゃうんだよ。

ねえ。(笑)寺から貰ったものは全部仏壇の引き出しに入る。(中笑)だめですねー。(大笑)だいたい、こういうものを用意してくるとですね、まるで大学の講義や学校の授業を受けているようにお感じになる方が多いかと思うので、私はいわゆる研修会とか学習会の時にはこういうものを用意いたしますが、この報恩講とか永代経(えいたいきやう)とかお彼岸とか、お盆のようなご法要が寺で勤まる時にはこういうものは、私、用意したことがないんです。なぜかっていうと、こういうものを用意して、やっぱり用意すると「一番上のA」という所をみてくださーい」と、こうなるでしょ？そうになると、なんだかまるでさあ、難しい勉強をさせられているような気になっちゃうんですね。そうすると、せっかくのことが耳に入らなくなるんですよ。で、そういう恐れがございしますが、今日はあえてこういうものを用意させていただきますのは、この副住職が悪いんです。(爆笑)私に注文をつけられましたから、こちらの副住職の注文に応じてこういう形でお話をさせていただくということではございます。で、この今日のテーマは「よきひとに遇う」ということです。で、この「よきひと」というのはちよつと見ていただいて、プ

リントのBですね。Bのところに「よき人」という言葉の出元は「歎異抄」や二章の親鸞聖人の披瀝である。披瀝(ひれき)というのは親鸞聖人の信仰告白ですね。で、その次に「親鸞におきては唯念仏して弥陀にたすけまいすべし」とよき人の仰せを蒙りて、信ずる他に別(わか)の仔細なきなり」と。これが歎異抄・二章に出てくるお言葉です。これは非常に大事な言葉でしてね、たとえば親鸞聖人という方は、おくれあそばされて約800年経ちます。お元気な時は800年前に活動された、大昔の人です。鎌倉時代の人です。ですから今日は700年目の報恩講がこゝ高徳寺さんで勤まるということなんです。で、その親鸞聖人に「あなたのご信心でどういつことございますか？」と直接お尋ねしたとしたならば、このお答えがかってきます。ですから「親鸞におきては」という歎異抄の言葉をアンダーライン(under line)として下の方にちよつと線が引っぱってありますね。そのところが歎異抄・二章の原文ですから、ここだけは今日はひとつ声を出して一緒に読んでいただきたい。「親鸞におきては唯念仏して、弥陀に助けられまいすべし」と、よき人の仰せを蒙りて、信ずる他に別の仔細なきなり。はい。これはですね。親鸞聖人の信仰告白です。で、ここに「親鸞におきては」とござい

ますが、歎異抄というのは日本の宗教書ではキリスト教のバイブルと並んで明治以来最も売れているところの書物でございまして、親鸞聖人のお言葉を集めたものです。

だから親鸞さんの語録だと言っている。その歎異抄の中で親鸞聖人は大事なことをおっしゃる時には、「われは」とか「わたくしは」とか「わが身は」という表現はとってません。大事な時になると「親鸞におきては」とか「親鸞は」とい自分の名前をキチッと入れておっしゃってます。ですからここは非常に親鸞聖人が大事に語られた言葉です。ですからアマダ・ラインを引いておいたようなことでございます。では親鸞聖人の信心とはどういふことですかというところ



Preaching us.
Staying here right now

「親鸞におきては『ただ念仏して』」念仏というのは「なんまんだぶつ」(南無阿弥陀仏)と称えることです。ただかうただ念仏してというのは「なんまんだぶつ、なんまんだぶつ」とこの口に称え奉ることを「念仏申す」といいます。で、ただ念仏申すというのはどういふことかというところ、弥陀にたすけらるるということだと。この弥陀というのは阿弥陀如来のことを省略して弥陀というんですが、弥陀のところはカッコしてありますね。ハミダの本願、無条件という救いと。今日はこのことをテーマにお話ししたいのですが、無条件の救いという

ことが阿弥陀如来の……。これは他の仏さまにないですよ。阿弥陀如来独特の救いというものは、密教繁盛だとか、長生きだとか、そんなケチな話と違っていますよ。学業成就だとか、身体健全というふうな、そういう話でいいんです。本当に無条件で救われるというところ。で、無条件で救われるって何か救われるのかっていうと、皆さんどうですか。皆さんはきり言で、自分が今救われたいというふうなお気持ちを持っているから、たまにはお墓参りもしなければならぬいし、お寺の報恩講という住職や副住職の顔もあるから、義理にでも参りにやいかんてんで今日もいらしている方も……。 (笑) そういうのでお出になっている方もいらっしゃると思うんですが、たとえなんでもお参りしたってのは、来ちゃった以上はあなた、離しませんからね、おは……。 (笑) 来ちゃった以上は最後まで聞いていただきますから。で、ここであらう仏法で救われるというのは、仏さまが我々を救うとか助けるというのとは、十把二絡でザルで掬い上げるような、そういうのが仏の救いではないんです。仏教というのは基本的に言っています、「自覚道」でございまして、だから例えは「仏道」という言葉をお聞きになったことあるでしょ？ 仏道修行って言葉がある。ね、仏道という。仏道というのは自覚道だということです。自分に目

が覚めるということ。自分に目覚める。自分に目覚めるって何を目覚めるのか。これが私どもは分からななんです。まだ目が覚めたことがないから……。だから自分が目覚めるということがどういう意味か。ところが全然分からななんです。これは世間でこれ程経験を積んだ方でも、社会経験がどれだけ豊富な方でも、頭のイイ人でも、ノーベル賞を貰うような人でも、東大出の人であっても仏法を聞かなかつたら、ここだけは分からなんです。で、つまり何に目覚めるのかというと、私というのは真面目に生きてるつもりだったけど、いかにオボタンの掛け違いをした人生を歩いてるかってことに気がつくってことです。これが一つ。自分の勘違いに目覚めるってこと。これが一つ。オ二番目は、いろんなことを願っているけれども、本当はどうなりたいのかってことがはっきりしないんです。本当はどうなりたいのかってことがはっきりしない。で、私はこの頃よく申し上げるのは、本論に入る前にイントロで終わっちゃいそうですけど、あの、この世に私が一人の人間として生を受けた、生まれた意味と死ぬことの意味が一つになるかならないかなんです。あの、皆さん、自分の死を経験した人は一人もいないです。けれども自分の大事な方と死別された悲しみというものを、ご経験にはなっておられるけれど、死ぬということはどういうことですか？ 今までこういうことは意味があ

る、こういうことは価値があると言っていたことが全部ふっ飛んじゃうことです。

人生の意味はこういうことだ、こうなるのが幸せだなんて考えていることが全部

色褪せちゃう。死ぬために用意したことも間に合わんてのが死ぬことですか。

「死ねる人は少ないね」って。死ぬるってことはねえ、大変なことです。死ぬ人は多いですよ。100人が100人、皆死んで行きますけど。死ぬるといふのは納得して死ぬるってことです。ということは、自分が今生きてるということに、あなた納得しているか？ って、こういう問題なんです。だから本当に自分が自分として生きてるということに納得して、この今の自分が生きてる

ということを、本当に大事にした人からはじめて命終わるときに死ぬるといふことが成り立つんですよ。ですから今日は「親鸞におきては唯念仏して弥陀に助けられまいらずべし」とよき人……ここによき人という言葉が出てきた。カッコしてへ眼の前になします師、法然上人。つまり親鸞聖人は法然上人という方に会って一念仏にまなこ（眼）が開けたといふことが、私の人生で一番の出来ごとであります。あのことがもしなかったら、私の人生は空しく無意味に終わつたであろうと



こういうところから生涯師匠法然上人のご恩ということをお忘れずに讃仰されたいです。ここで法然上人から何を教わったのかといったら、「唯念仏して弥陀に助けられまいらすべし」と法然上人から教えていただいたことに何もつけ加えることはない。これが私の信念であります。この言、この言葉なんです。ここで大事なのは「唯念仏して弥陀に助けられまいらすべし」とこれ昔々文語体ですからちよと分かりにくいですが、唯念仏してゐるは、「なんまんだぶつ、なんまんだぶつ」と称えることです。ところが「うかり」と「なんまんだぶつ、なんまんだぶつ」と称えるということは、数多く称えたら功德を積んだことになる。と昔々、そう思ふんです。人間で皆ね、自分のやうたことが徳になるということではないと承知ができない根性を持っていますから、計算第一主義ですから生きていくというとは、ですからいつでも

計算がつかまらうんです。ですからその

お念仏を数多く称えたら仏さんも放つてはおかないだろあ。やな根性だね。

(笑)で、そういうところで唯念仏して

いうのはひとつ間違つと、念仏数多く

称えたら功德を積んだことになるから

仏さまのお助けに与るであらうとか考



法然上人に出遇つて何が分かったかと言つたら、唯念仏してゐるは無条件の救いを受け入れるということなんだ。ということが分かつたんです。このことは今日のテーマでいろいろと申し上げますから、そこに参ります。前に今日のよきひとに遇うという副住職からいただいた、このテーマです。で、このよき人なんて言葉は皆さんお聞きになつたことがない言葉だろうと思います。しかしこの言葉は、えー、伊藤佐千夫という人かいるの。この人は「野菊の墓」(1906年明治39年発表)という作品を書いたことで有名な歌人ですが(1864年1903年)歌よみというのは非常に言葉の感覚が敏感です。この伊藤佐千夫という歌人がですね、よき人という言葉をして、最も美しい日本語の中の一つであると絶讃しております。で、具体的に言う

と親鸞聖人にとっては師匠法然上人の

ことを言っているんですが、よきひと

と。このよきひとというのは、「あいつ嫌

なヤツだけど……」「この人良い人よあ」

とかそういうんじゃないんです。この

方に出遇つたということか、私の人生で

本当に一番大事な出来事であつた、そ

れによつて私の人生全体が意味を持った。

だから私は身いばい身をつくして生きることに出来

たし、命終る時に安んじて死ぬる身になりました。こういふことです。どういふところをひとつ考えてください。ですからこれは親鸞聖人のお言葉ですから80年前にこんなこと言った人の言葉だということ、なにか昔の古典の勉強をしているようですが、そうではなくて、今ここに居るあなたや私がですね、昭和6年(生れ)ですから、誕生日がくると78歳になるんです。ですからだいたい私と似たような人が今日も結構いらっしゃいますね。もうだいたいそんなに長くないです。(笑)これから20年も30年も先なんてことないです。まあ10年以内には片付きます。(大笑)間



違いがないですから。で、その時に、あなたが死ぬる身になるかどうかなんです。死ぬる身になるかならないか、っていうのは臨終の話でいいですよ。今、生きている時に私が私で本当に良うございましてと言え身になるということが、死すべき時に死ぬる身になることなんです。死に際になんてそのことを解決しようたって、それは無茶な話です。ですから今、身も心も確かな、まだ自分の金持って電車に乗って高徳寺へ来て、いくらかでもお布施が出せるような、今が大事なんですよ。こ

こでやはりちゃんときちんとしていこうと。だから他人のためではないですよ。そういふことをひとつ考えていただきたい。で、この善知識といふ、レジュメの一番上の[A]のところへ戻ります。善知識とは皆さん、このよきひとは具体的にいうと善知識といふことなんです。で善知識とは仏教で非常に大事なんです。善知識とはどういう意味かという、「我う門外漢を仏道の門に導き入れてくれた人」のことをいふと。「知識」と略称することもある。宗祖もこれは親鸞聖人ですね。「真の知識に遇うことは、難きが中になお難し」と和讃されています。でこの門外漢とはどういう人かという、どうですか、今この高徳寺の本堂の中にいる人は門外漢だと思てないでしょうか? ところが親鸞聖人から言われると、「お前、門外漢なんだよ」ってことです。どういう意味かという、門外漢というのはですね、真面目に生きていけばいいんだと。自分の心で、真につくして精一杯努力していけばいいんで、その上仏教なんぞ聞く必要はないと思ている人。と門外漢というんです。だから本当に寺へ参っても、先祖のお墓参りは大事にされるけど、お寺へ行くと仏さまの教えを聞くという、この心を持って寺に来る人は大変に稀です。私の寺もそうです。私も住職50年以上勤めさせていたでいてあります。

けど、本当に悲しいけどそうです。ご法事だとかお墓参りというので、先祖を大事にする思いからお出になる。これは尊いことですけれども、先祖のことってまだひとつです。どんなに大事をお考へになっても、先祖様のことって他人事ひとごとですよ。この自分が本当に私が私であつて良かったことが、あなた本当に言えるか言えないか。そういう問題なんです。ですから決して他人の話でないでございします。ですから世間で真面目に生きている方は、ま、今の団塊ぐんかいの世代（昭和20年〜24年頃に誕生された人の年代）は、だんだん定年を迎えてきているけれど、ほとんど仏法を聞こうとしませんね。やっぱり真面目に生きていけばそれでいいんだってことなんです。そして医者から癌がんの宣告でもされるって慌てふためくという事です。まだいのちがあるうちには慌てふためいているから、まだ間に合うかもしれないけれど、ちよつと遅いなあ。ま、そういうところで善知識というものは、門外漢である私を仏法の門の中へ導き入れてくれた方と、こういうことなんです。そして〇〇のところを見ていただく、これは『浄土真宗』という書物の中で存覚ぞんかくという方が非常に見事にこの善知識とはどういうことを述べられています。総じていう時は、真の善知識というは、諸仏・菩薩なり。別していう時は、われらに法を教えたまえる人なり。

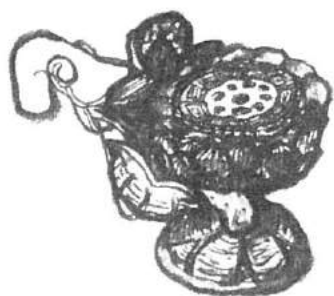


と。つまり善知識というのは仏さまなんだと、「別していう時は、少し細かく、具体的に言う」と「われらに法を教えたまえる人なり」と。私に仏法を教えてくださる方なんだと。別にこれ、お坊さんてことを言ってるんじゃないですよ。坊さんだって全然仏法を教えてくれない坊さん、いっぱいいますから。ご祈禱をしてお祈りしたり、ご祈禱をしたって仏法はどういうものかってことを語ってくれる坊さん、ほとんどいないじゃないですか。私は池袋に住んでおりますけど、今東京で一番繁盛している寺は近くにあるけど、巣鴨のお地蔵さんなんだって。ね、おばあちゃんの家宿やどっていうけど、行ってごらん下さい。四〇日の縁日に。おばあちゃんばかりじゃないですよ。これから「ババア」になる人がいっぱい来てるから。（笑）で、私いつも思うの、昔は浅草の観音さんが一番お参りが多かった。今、巣鴨のとげ抜き地蔵。要はどこでも同じことなんです。とげ抜き地蔵さんへ行くともお地蔵さまに直接対面が出来ないですよ。お厨子くしの中に納まって。浅草の観音さんへ行っても、観世音菩薩へ直接対面は出来ません。秋祭りだからって、どんな神社へ行ったら、お宮さんに行ったら、神様の

ご神体に直接お目通りは叶わぬのです。こういうのが宗教といふものが抱える問題なところですね。一方通行、一方通行ですから応答がない。だから迷信の温床になるという危険性があるんですよ。やはり巢鴨のお地藏さんに参られたら、その本尊として祀られているお地藏さまは、我々に何を語っておられるか、とを聞こうとする人はほとんどいないでしょうね。こういうのを、すれ違い、っていいんですよ。だからお地藏さんのところへお参りに行っているけれど、線香の煙に会って帰ってくるだけ。これ、すれ違いですよ。浅草の観音さんもそう。浅草の観音さんへお参りして、お賽銭（さいせん）ちゃんんと投げて、何ごとかをどうぞ宜しくお願ひしますという一生懸命やっても、そこで観世音菩薩という仏さまが我々に何を伝へようとしておられるのか、とを考えた人は一人もいないですよ。まず、全部これも一方通行です。応答がないです。そういう問題があります。で、そういうところでこの〔C〕「総じていう時は、真の善知識」といふは、諸仏・菩薩なり。別していう時は、われらに法を教えたまえる人なり。だから法、仏法を本当に私どもに語り、教えてくださるお方を真の善知識とこういうのだと。えー、そのところにちよっと書いておきました。が、「涅槃經」といふお經の中には、「生死の大海を度すが故に、諸仏・菩薩を大船師と名づけ、善知識」といふと。



善知識といふのは、先生という意味です。仏法の上の。先生という意味だけど、仏教大学の教授だとおね、仏教の講座の講師とかと話が違ふんですよ。この先生に遇ったことによつて、私が生まれた意味と死ぬことの意味が深いところで一つなんだと、初めて会得させていた。言ひました。言つたときに、この方が私にとつて善知識でありました。かけがえない先生でした。ところが言えるんですよ。で、その次のところに「仏・菩薩のほかに、衆生（しゆじやう）に法を聞かした人（ひと）をば、善知識といふべし」と聞こえたり。又、まさしく自ら法を説きて聞かする人（ひと）ならぬども、法を聞かする縁（ゆかり）となる人（ひと）をも、善知識と名づく。然れば、仏法を聞きて生死を離るべき源は、ただ善知識なり。ここで非常に大事なことは、先生といつても偉い先生という意味じゃないです。私どもに仏法の心髓（しんずい）を教えてくださる方、それから私どもに仏法を教えてくださる人ではないけれども、私が仏法を聞かなきゃならぬという縁（ゆかり）に、た人も又、善知識と名づくところなんです。これは大変大事なことですよ。ですからその次の〔D〕のところは、「真宗門徒の生活の中

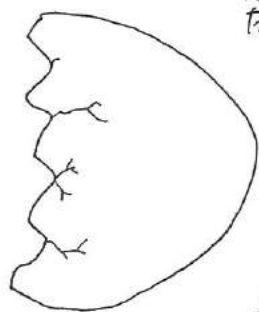


から生まれた言葉に「先立つわが子は善知識」
てのがありますよ。これは、いろんな方との死別ですね。
之ー私はまだ自分の子供を亡くした経験がござい
ませんので、本当のところは分かりませんが、私
の寺のご門徒でも、親が亡くなった時は本当に寂し
くったと。親が亡くなることは、実家が無くなる
ってことですからね。二親がいなくなるっていうのはね、
自分の生まれた家が実家という意味を無くすん
ですよ。兄弟の家になっちゃうんだよ。そういう意
味の寂しさっていうのがありますね。それから自分の
連れ合いに死なれるというのは……これはねえ、あんな口
うるさい女房なんかいなかった方がイイなんて私も
時々思っているけど、そうではないですよ。いてもいなく
てもどうでもいいよつなのって大変なの。いなくなると呼
吸困難になるから。(笑)だからいてもいなくなってもい
いよつなのが本当は大事だってことです。いなくなってもや
っと分かるんですよ。だからそんない
う意味で親を亡くすとか、連れ合
いを亡くすということの悲しみも
あります。よく皆さんがおっしゃる
の、ほんとに言っても一番辛かったの
は我が子を亡くした時だと思っ
しやる。しかも、これは私の寺でそ
れから非常にお父さまが熱心に

聞法されるようになった越後生まれの男性がいら
しゃるんですが、この人は大学一年生になった時の女
子大に入学したばかりの長女がですね、どういつ理由
か分からないうけど自殺をされた。この時のことをお父
さまはあとあとおっしゃいました。悲しいなんてもんじゃ
ない。全身の血が逆流した思いだったと。で、その時
に、皆親戚の人が集ってきて、お通夜の日には、度々
してね、お茶の仕度だとか、お参りにみえた皆さんに召
し上がった。だくものを煮たり刻んだりしているときに
女性どうして笑い声が漏れた……。決してその、自分の娘が
死んだことを喜んでるのではないってことは分かるけれど
も、その笑い声を聞いただけで、私は怒り心頭に震えた
ことがあると、おっしゃったくらいで、我が子を亡くすとい
うことは、親を亡くし、連れ合いを亡くすのも辛いことで
すけど、本当にこの逆縁という言葉がありますね。

逆縁。あの、「白骨のお文」に「老少不定」って言葉が出
てくるでしょ。この世は老少不定の世界だってのはですね。
年寄りと若いものと定めがないってことなんです。年
寄りから死んでいくと決まってるってことなんです。だ
から親より先に、先立つて亡くなる子供さんだって無い
訳ではないです。ですから、それは親にとったら逆縁です
から本当に辛い、お悲しみな訳ですね。で、その辛い悲し
しみということが機縁になって仏さまに心の癒しを求め

てというので、仏さまの教えに少し近づいてくると。そしてその教えが聞き開かれた時に、ああ、先立って亡くなった我が子が私を仏法へ導いてくださった善知識様だったんだなあ、とこう、亡くなった子供のことを……。ね、死んだ人が仏ではないですよ。これお間違いない。死んだら仏になるなんて簡単に言わんでください。死んだ人はただの死者ですから。亡くなった人です。それ以上でもそれ以下でもありません。お間違いないように。だげど亡くなった人のことを、ほとけさまとすることがあるんです。死んだ人がイコール仏じゃないですよ。亡くなった人が亡くなったあの悲しみの中から私が、いまだかつて覚えがないような苦しみを経験したから、そこから仏法に向かったと。それで仏さまの教えを少しずつ少しずつ聞き開いてきた時に、ああ、仏さまの教えというのは、この私のためであつたんだということ、本当にお念仏の教えが私の身にいたった時にどうしてみると、今思ふと、あの亡くなった我が子は、親の私を導いてくださった、仏さまのはたらきをしてくだされたあの方なんだなって。亡くなった時に、死んだ我が子は仏さまだと言っても間違いない。はい、いけれど、死んだイコール仏ではありませんよ。そんなところをお間違いないように。のように。自分にとってこの方は、ただの



亡くなった人、ただの死者ではないと、こういつことが自分の中ではっきり受けとめられたときのことばが、先立つ我が子は善知識」といふんです。で、この下に「愛娘・小式部内侍を喪った和泉式部が、その3回忌に詠んだ歌に、『夢の世にあだにはかなき身を知れと教えて還る子は知識なり』これは善知識って意味ですよ。で、この和泉式部というのは皆さん、名前くらいにお聞きになったことがあろうと思つてんですが、平安時代を代表する女流歌人です。で、この人はですね、時の関白・藤原の道長をして浮かれ女と言わせたんですよ。之と字を消すのはどこにありますか？（先生、目の前のホワイトボードにくっついてる青いのがそうです）ああ、これが目に入っちゃった。（笑）目の中入っちゃつてのは、こういうことを言うんだね。で、藤原道長という当時のいわば総理大臣を務めていたような人がね、和泉式部のことを浮かれ女とこう評したんですよ。つまりこの人は生涯色恋沙汰ですごくたんだ人なんです。男好きだったんだね。歌人としても有名です。で、この人は結婚してたんだ。結婚して子どももいるのに、自分の好きな男のことを放っておけなくなるんだね。自分の好いた男がいるとそこへ行って虜にし

ちゃつんですよ。だからその当時の皇太子ね、

こちらも結婚なすってんですよ。その皇太子を奪っ

ちゃったんだから。今の時代で考えてごらん下さいよ。浩宮
さんを奪っちゃったんだ。(笑)すごいと思われない。こりや雅子
さん、どんなに腹立てるだろうね。(笑)つまりそういうことを
やってのけた女性がこの和泉式部なんです。ところがこの人
はまたねえ、歌人としての才能というたら、それは平安時代
を代表する女流歌人という評価が今まで伝えられている
くらいで、そういう点では素晴らしい才能の持ち主だけれども
片一方、ちやうと自堕落で男好きでしやうがなかったんです。
で、その人の娘の小式部内侍って、これがね、又、親に似な
いね。才能はあるけれど親に似ない良い娘なんだって。..
それでこの娘が年頃になるとみんなね、その藤原の貴族
がね、その小式部内侍ってのは才能もあるし、可愛らしい
し、美しいお嬢さんでしよ、当時の若い貴族がね、みんな寄
つてたかって、なんとみ自分の方に振り向いてもらうと思
つて一生懸命になる。である時、和泉式部がですぬ、天
橋立へ旅行に行ったんですよ。なんで行ったかという
と、自分がこれはって思った男の人が今、天橋立へ旅に
出てるってんで、それを追っかけて行ったんですよ。すごい
でしょ。今みたいに車僞ばすんじゃないです。歩いて行
くんです。で、平安時代ですから、そつやつて行ったん
です。その時にその若い藤原の貴族がですぬ、娘の小
式部内侍を困らせてやろうつと思つて、お前のお母さ



んは宮中の歌会始めに天橋立へ行ったとい
うことと人の話で聞いていると。又、お前のお母さんは
男でも追っかけて行ったんだらうと。で、宮中の歌会始
めという大事な時に、間に合はんのでは困るんではない
か。なんとか呼び寄せたうどうだ。と、こういうことを娘
に言ったんです。で、そうしたら娘は何て言ったかと
いうと、皆さんご存知の、「大江山生野の道も遠
ければ、まだふみもみず天橋立」この歌で切り
返したんです。流石の貴族も和泉式部の娘だけの
ことはあつて、歌の才能は拔群だと皆が尊敬の眼
差しで見直すようになったという、有名な話なんです。
この歌はご存知でしょ？これは娘の小式部内侍が母親
の帰りが遅いというのを待ちかねて「大江山生野の道
も遠ければ、まだふみもみず」って、ふみもみずってのは
まだ私はそこへ行つたことがないってこと。この足で踏み
しめてないってことと、お母さんから何月何日には都へ帰
るよとかつていう文が来てないってことで、「ふみ」とい
うのを両方につけたんです。だから「生野の道も遠けれ
ば、まだふみもみず天橋立」と。こういうことで、私は
まだ行ったことがないからどれだけ遠い所なのかさぞ知
りません。また、お母さんからそれについての文、たよりも
ないことだからって。これがすごい歌だといつて宮中で
非常に評判になった。ところが、好事魔多しとはい
うけれど、この小式部内侍が17歳で流行り病いに

よって急死したんです。で、その時の歌です。『うさ歌がある。』いかにせん行くべきかたも思ほへず親に先立つ道を知らねば』と。どうしようかと。親に先立つ、行くべき道が私には分らないとね。本當に寂しいことですよ。死を前にした娘が詠んだのがこの歌です。で、これを娘から詠みかけられた母親の和泉式部が『埋もれ木の口はずべきはのこりしてつぼめる花の先に散るとは』と。涙ながらに返歌をしたと。こういうことがあったんですよ。娘は亡くなった。で、その時に今までは自由奔放に遊び呆けていた和泉式部なんです。大事な一人娘を亡くした時の悲しさを少し正氣にかえったんですね。そこで毎日毎日、涙で枕を濡らすめ日はなかったということです。で、そこである人があの和泉式部がこんなに嘆き悲しむのでは命に關わるのではないかと。親切な人が、あなたそんなに嘆くものではないと。そんなに悲しいならば、立派なお坊さんを紹介してあげるから、そこへ行ってお経をあげてもらおう。仏さまのお話しを聞かせてもらうなりした。うとうと勧めてくれた。そして訪ねて行ったのが姫路城の近くに「書写山・円教寺」という寺がある。これは武蔵坊弁慶がお稚児さんの時にここで修行したと言われる寺なんです。ね。姫路らしき

で言え、姫路城だけじゃなくて、書写山・円教寺も是非いらしてやると良いですね。そこに性空上人という非常に高德のお坊さんが当時、おられた。で、そのある人の勧めによって和泉式部は書写山・円教寺へ性空上人を訪ねて教えを請うた訳です。もう死んでしまいたいくらい、今、悲しみに沈んでおられます。こういうことを訴えた時に性空上人と三日三晩語り明かしたということが伝えられております。で、その時に和泉式部は歌人ですから自分の苦しい胸の内を歌で詠みかけると、性空上人が歌で返すという。この歌でやりとりしたということが記録に残っているんですよ。で、私、実は3年前に書写山・円教寺へ行きましてね、それは何のために行ったかという。性空上人と和泉式部とのやりとりの歌がここに



かに残っていないかと思っただけなんです。お寺で聞いてもそのういものは記録としては残っておりません。ということなんで、残念ながら手づから帰る来たことがあるんですけれど、そういうことが語り伝えられています。そして12年の時を経まして、13回忌の法事

を勤めた時に、この和泉式部が詠んだ歌が、レジュメのところで……『夢の世にあだにはかなき身を
知れと教えて還る子は知識なり』と。13回13日の
時に和泉式部はこういう
歌を詠んだんですよ。娘の
法事の時にね。この心境は
お分かりになるでしょ。私は



決して和泉式部という人を面白おみしく紹介
している訳でなくて、やっぱり人間というものの業
の深さですよ。あのね、男好きとか女好きって、あ
れ、業が深いだけ。私も女性好きだけど、まあ
女房は一人で済んでるからねえ。(笑)ところが、
いけないいけないと思いがちで、そっちに引きずられ
ていくことがあるんですよ。自分の意志ではこれ
はいけないいけないと思ってるけど、そっちの方へ引
かれていくことがあるんです。これは男と女のそう
いうことばかりでなくて、いろんな点でございます。
そういう時に人間で自分の自由意志でものがで
きると思ってる。たぶん、そうではないですよ。やっぱり業縁
のままに人間は生きています。業縁のままに、
人間というのは業縁存在だ、って言われているんです。
ですから例えは、よく譬えて言うんですけど、私ねえ

うちの女房からよく言われるんです。「あなた、よそへ
行ってエラそうなの口きいてるけど、本当にうちにいる
とあんたなんか、本当に……」って言われるんですよ。実
本当に何かが、何を言わんとするか分かるんだねえ。
ホントに二つ三つ言われるんです。それでなんだい、と言
うと、「あんたくらい、ちんぱり立ちはいない」と。私ねえ、
すぐ腹が立つんですよ。ちん腹立ちだ、って言います。
別に瞬間湯沸し器ではないんだけど、なんかあると
すぐ腹が立つんです。そこで女房がいつも、あんたは、
ちん腹立ちだと。こういうことです。もっと大きなこと
で大きな腹を立てなさい、って言うわけです。ハイ、って
返事するんですけど、やっぱりダメね。それでね、私、う
思いうの。腹が立つってどういうことですか？今日は
久しぶりに天気が良くなったから腹立てよう、って人
はいないんですよ。腹立てようと思ってる人は、
いないんですよ。腹を立てるとか立てないと、関係なし
に生活してるんだけど、腹立つようなことの縁に遇う
と腹が立っちゃうんだよ。腹は立てようと思ってる、立
られるものではないですよ。腹は立っちゃうんです。だ
から人間は自分の自由意志で生きていると勘違い
して、まずいけど、そうではないですよ。よってこの、ひとつの実
例でよくこれを申し上げるんです。腹を立てるとい
うような日常茶飯時の、ささいな事ひとつ取り上げて

みても、自分の自由意志なんかで生きている人なんてないです。よ。このところはひとつはきりおさえておいてください。なんか身も蓋もない話してるようですね。(笑)身も蓋もないところに大事な話があるんです。あの世間というのは臭いものに蓋をしますから。仏法へくると、そのせつめく蓋してるのを取りますから。(笑)これが世間と仏法の違うところですね、非常に大事なところ。私がどうしてこういう風になったか、これ親鸞聖人の影響を受けているんです。文句があるなら、親鸞聖人に言うてください。(笑)話を戻しますけど、和泉式部が娘の三回忌を迎えた時に、夢の世にあだにはかなき身を知れと教えて還る子は知識なり』と。ああ、17年の短かい生涯であつたけれども本当に私にとっては親に過ぎたる授かりものだったと。だけどあの子が亡くなったというところは、私はどんなものを失ったより辛かったと。だけどそのことを通して、ああ自分がいかに業が深いかと。業の深い女とは他人のことではない、私のことであつたことに気がつかせていただいたんだと。その業の深いものを、非じみたもう眼差しが仏さまであるというところにはじめて気づかせていただいたといつので、この時に詠んだ歌が、くらしきよりくらしきに至るこの身おはるかに照らせ山の葉の月。この歌を今、思いおこしました。うん。

これが浮かれ女と言われた人かです。娘の死を機縁に自分の業の深さというところを知られた時に、仏さまの慈悲の深さというところを同時に知らされたんですよ。



そういうところがこの歌にうかがうことができるんでないかと思うんです。で、今度は難しい言葉が続きますが、辛抱ください。目のところは親鸞聖人ご製作の「浄土和讃・大經の意」さっきご住職がご挨拶で、大無量寿經の意を親鸞聖人がおっしゃった。その大無量寿經の意を親鸞聖人が和讃されました。その中に出ている二首をプリントして来ました。「善知識に遇うことも教うることもまた難しよく聞くことも難ければ信ずることもなお難し。」一代諸教の信よりも弘願の信衆はお難し。難中之難と説きたまひ無過此難と述べたまふ。後で法要になりますと、親鸞聖人ご製作の正信偈が勤まりますね。その正信偈のところ、ちやうど氣をつけておいてください。「信衆受持甚以難」難中之難無過斯」って出てきます。そのことなんです。ここにおっしゃっているのは……。それで、目のところを見てください。「無条件救済・平等攝取の本願念仏は、極難信の法である。易行難信

といわれて来た。」と。易行というのは、行はたやすいが、無条件の仏心には容易に頭が下がらぬというのが、易行難信ということですよ。で、いつの時代でも仏法聴聞に心をかけてきた人が、必ず直面し、当惑するものがこの関門と。あのねえ、お念仏というのはねえ……これは私のところのご門徒で面白いおはあちゃんがありましてねえ、毎月の集まりに花札の友だちを連れてくるんだよ。連れて来たから真宗の門徒かというところ、どうじゃないの。なんでもいいから来なさい、来なさい、浄土真宗が一番イイのよ。私どうやって勧めてるの。」と。いつてもよ、6人連れてくるんだよ。それで連れて来られた友だちは途方に暮れたような顔して私の話を聞いてるんだぞさ。とにかく面白かったですけど、そのおはあちゃんに、「あんた何と云って勧めるんだよ。」って言ったら、「何たって浄土真宗が一番楽でイイのよ。ただナンマンダブツって称えればいいんだから。こんな簡単なのはなんだから。修行したりとかね、お金を沢山出さなきゃいけないとかって、そういうことも何もないんだから。おさしつかえなし、おかまいなしなんだから。一番イイのが浄土真宗よ。」と。こうやって勧めてるって言うから、そういうのはあんた、鼻根の引き倒して言ってるね、あんまりそういう勧め方をすると困るんだよって言ったことを覚えてますけど……。浄土真宗では古来ね、易行難信で

言っただけですよ。易行っていうのは、行はたやすいんですよ。ですから「なんまんだぶつ、なんまんだぶつ」ですよ。それも仏前で手を合わせなきゃならんっていうんでないですよ。風呂へ入っても、トイレに入っても「なんまんだぶつ、なんまんだぶつ」ですよ。おさしつかえなし、おかまいなしですから。私はよく言っただけで、一番念仏を称えられない人は、廁念仏といってトイレで便器に腰かけてからフツと気がついたら私の顔を思い出して「なんまんだぶつ、なんまんだぶつ」と言ってくれなさいよ。(笑)だからトイレの中であろうが、旅先であらうが、お念仏はどこで寝ころんで称えようが、お念仏の価値にかわりはないというのが、本願の念仏ですから。ですからお念仏を称えることはたやすいんですよ。一番たやすいんですよ。行としてたやすい。ところが、お念仏というくらい、難しいことはない。だから難信って、信じ難いってなんです。平たく言うと信用できんってことです。難しい方が信用出来るの……。こういうことをしなさいって条件つけられた方が、納得できるんです、我々は。ところが無条件とかなるとかえてヤバイぞってなるんですよ。なんかそこへ踏み込めない。タダ程怖いものはない。なんか下心があるんじゃないかって、自分に下心があるから相手のことを、そういう風に思う……。笑)でね、本当にお念仏ってのは信じ難いんですよ。難信なんだ。浄土真宗は難しい

です。ぬってよく言われます。はい、なんまんだぶつです。から
たやすいですけど、難しいです。ぬって言うんです。難しい
ってのはね、ややこしいんじゃないんです。単純明快な
んです。だから念仏というのが非常に大事なはで
すね、ただ念仏というから浄土宗の念仏とごっちゃに
なっちゃうんです。本願念仏なんです。本願念仏と
いうのは阿彌陀如来がです。阿彌陀如来様が
すべてのものを目覚まして救うというために、仏さま
らしい姿、形や威厳、品格をすべてかなぐり捨てて、
私の中に「はたらき」となって寝びひんで来た。どう
それが南無阿彌陀仏という言葉となった。「はたら
き」なんです。ですからその「はたらき」に目覚まされ、
その「はたらき」に導かれて、救われていくんです。から。
その念仏というのがただのナニマダブシじゃないんです。
本願の念仏なんです。阿彌陀如来様が無条件で
平等に救うというこの誓いをたてた、その表れな
らう。これがねえ、なかなかな正確に理解されて
いないんです。だからただの念仏だと思って、つつかりす
ると……。例えば、お念仏でも、お題目
でもそうです。日蓮宗ではお題目
とって、「南無妙法蓮華經」を
唱えるというのが大事なんです。
で、お題目とお念仏は発音が



違うだけだと思っております。普通の人は、「なんま
んだぶつ」と「南無妙法蓮華經」は発音が違う
だけだ。そういう風にしか理解されない。ところが
世界が違ふんです。「南無阿彌陀仏」なんまんだ
ぶつと「南無妙法蓮華經」は時限が違ふ。どう違ふか
か質が違ふんです。方向が違ふ。どう違ふか
ていつと「南無妙法蓮華經」っていつのは数多く唱
えると功德を積んだということになるから、ご利益
をいただくことが、精出してお題目を唱えなご
いてこうですよ。だから私のこの寺のすぐ裏にマ
ンションがあって、そこにねえ、創価学会の信者が夜
の仕事をしている女性が一人暮らしをしているの。そ
の人がね、夜店へ出る前ですからね、今時分からはじ
まるんだ。だいたい三時過ぎくらいに「南無妙法蓮
華經・南無妙法蓮華經」——だいたい一時間から二時
間やります。一生懸命やります。それでそのマシン
ヨコの管理人のおばさんと私、親しいもんでよく聞くと、
おたのみのあの三階にいる人熱心だねえ。という
「あの人、夜の蝶なんだけど、熱心なよ。」って。ちよ
と年取った蝶だけだね。(笑)稼ぎもいろいろいい。その
人がね、管理人のおばさんにも言うには、「やっぱりお
題目って有り難いねえ。ご利益観面よ。今日
は一時間とだけ、一時間半。30分延長してお

題目を唱えたから、その晩ちゃんとイイお客がつくんだ。(笑)ご利益は靚面ね。って。だから精進して一生懸命やります。私も毎朝お朝事を本堂で勤めますけど、私は20分で終わっちゃうんだけどね。(笑)あちらは二時間半、三時間やります。「南無妙法蓮華經」って。エライもんですね。私は尊敬しますけど。ただ、お題目を唱えるということは、数多く唱えたら功徳を積んだことになる、それに見合っただご利益をいただける、こういう信仰なんです。ところが、お念仏というのは数多く称えたら功徳を積んだことになるからと、この話の違ひなんです。世間はそういうものの考え方じゃないで、よって。だからどれだけ功徳を積んだとしても、真実功徳にはならないよ、ということを悲しまれたことです。あの女性の例は典型的ですね。お題目を数多く唱えたらイイお客がついて、ご利益は靚面だ。やっぱり人間ってのはねえ、無心とか無我なんて言うけどね、ぜんぜん。真の心って、このは無我・無心というのが真の心でしょ。無我・真実という。ちゃんと計算がたってますから。だからお題目を唱えるというところは尊いことですけど、お題目の唱え方がひとつ間違ふと、仏教でなくなりますね。そういうことを私つくづく思ひますけれども、それは私どもには本當に

は分らない。で、その本願念仏というのは、無条件であなただを受け入れるという、この私に対するメッセージが「南無阿彌陀仏」なんです。これはねえ、なかなか容易なうんことなんです。難かしいということですね。どうですか皆さん、ひとつご相談なんですが、阿彌陀如来という仏さまは全その人を平等に救うとお約束なされているんです。これそのまんま受けとれますか……？ 平等にっていうのはね、言葉とすると美しくね、理解できると、平等ってキライなんです。私どもは。何もしない人と一生懸命命や、た人が平等ってのは、おかしいじゃないかと、こつこつとありますが、だから平等という言葉は私どもは言葉でいうと自由と平等という言葉は理解しておりますが、本當は我々のものの考え方から言つと、平等とか無条件ってのはキライなんです。好かないんです。合わないんです。人間の考え方。だからやはり少しでも自分が努力をしたら、それに見合ったことがある、というのが当然じゃないかって、こつこつと考へ方なんです。これは人間の常識、世間の普通な考え方です。私はそれが間違っているなんて言いません。当然です。この世を生きていく知恵です。それは、娑婆の知恵です。しかしそこで止まっているのは死の問題なんです。だから死という問題になったら



一切のものが口を閉ざすんですよ。だから私は死というものはなんだというところを無化することだと思ひます。これが死というものの持ちようです。無化というのは人間死んだら何もなくなっちゃうんですよ。だって話ではないんです。無化というのはねえ、意味があると思ひつていたものも、無意味になるし、これは値打ちのあるものだと思ひつたことも、無価値になるってことなんです。まあ、私もまだ当分死なないつもりでいますから、こういうことを言ってますけど、例えは私がいけば死の宣告に等しいようなことを受けたような場合になつたうねえ、持ち金だとかなんとかかって……オレはこれだけのことをやってきたとみ言つたって、全部、色褪せちゃいますよ。本当にさういうものを、全く何にも持ち合わせが無いってこと。それを貧乏しものって言うんですよ。貧乏しものってのは、貧乏人ってことじゃないんです。喰ひるほど錢持っても錢が救いにならんってことに気がついてしまったものは、やっぱりこれは貧乏しいんですよ。そのものに本当に頼るべきものが何も無いということ。その時に我々に何をくださるのかっていうと、阿弥陀如来様は、我々のために大施主となりてと、さういふ言葉がお経の中にある。大施主となる。施主っていつと、法事を主催する人のことを言うてしょ。でこの大施主というのは阿弥陀如来様のことを言うんです。つまり大いなる施しの主っていうんです。大い



なるものを施すという。じゃ、沢山ものをくれる仏さんかいなっていうところじゃない。持ちものをくれるんじゃないんです。慈善事業といふのは、可哀相な人を見ると自分の持ちものの一部を割いて与えてくださる。施しをするところ、いつのことですね。ところが、仏さまはそんな自分の持ちものの一部を与えるといふようなことでは、それは徹底した親切ではないということ。よく私が申し上げるセリフにですね、相手の身になすって、いつかという言葉があるんです。2年程前からよく使わせていただいています。例えば他人様に親切にする人様のことをいろいろ考えさせてもらうとき、よくこういう言葉を言いますね。相手の身になすって考えさせてもらうよねって。相手の身になすって。素晴らしい言葉ですけど、相手の身になすってことは不可能なんです。相手の身になすってのは、言葉としては成り立ちますけど、相手の身になるといふことは絶対に不可能なんです。私がこの身をもつて存在している限り、相手の身になることは不可能なんです。その不可能を可能にしなければ、いつのが弥陀の本願。南無阿弥陀仏を思ひ立たれた理由がここにあるんですよ。だから外側からこの人



は気の毒な人だからなぐさめてあげよう、カづけてあげよう、背中が痛いというから擦^すってあげよう、行く先が分らんと言^いうから手を引いて案内してあげよう。こういうのは全部外からの救いです。そうじゃないんです。相手の中に入って、相手の中からその人を目覚まして救うということの、これは未^まだかつてそういうことを事業計画として計画した人はいないという。そういう救済事業計画を思いたれたのが阿弥陀如来という仏さまなんです。だから本願の念仏^{んぷつ}なんです。その本願というのは、無条件で救うということ。そのことが我々にはさきも言いましたが、無条件というのは承知^{しょうち}でさんです。タダほど高いものはないとか、タダほど怖いものはないという。そうでしょう。この世でタダでくれるって言ったら用心してちよつと一歩引いた方がいいですよ。相手に下心があるに決ま^まりますから。タダってことはないんですから。そういう中で生きてますから、タダでことが信用できるんですよ。無条件でことが信用できるんですよ。まあ面白い話でございすけどねえ、前にも申し上げたかも知れ^れないですけど、うちの寺のご門徒である人がね、こういうことを私に尋ねたの。「住職、

変な話だけど、お墓参りすると気持ちがいいんですけど。」「ああそうですか。」「どうしてなんでしょうね。」って言うからさ、そんなこと私は知らんって言ったんですよ。お墓参りすると気持ちがいいって、それは良かったです。ねとは言うけれど、どうしてお墓参りすると気持ちがいいのか私は分かりませんって言ったんです。それはあなたにお答えてできないって言ったけれども、あんまり素^す気ない返事をしたんで申し訳ないって後で少し反省をいたしまして、次に会うときまでにて、ちやんと考えたんです。で、次に会った時にこう申し上げた。「こないだあなたとおっしゃったけど、お墓参りするとなんで気持ちがいいんだろうねって言うから、私は考えてみた。お墓参りをするのにね、損得、懸^{けん}け引きでお墓参りする人は少ないと思う。お彼岸になったからお参りさせてもらおう。しばらくお参りもしてないからお墓へ参ろうかなって。だからその時に電車賃もかかるし、花代もかかるんですよ。ね、時間もかかるし、金もかかるんですけども、それは損得懸^{けん}け引きじゃないですよ。計算を入れてないですよ。だから気持ちがいいと感じるんですよ。と、いふことは、世の中全部計算づくだったことなですよ。そこでお墓参りが気持ちいいってことを感じたなら、ああなる程、世の中というのは、良い悪いじゃない。全部計算で成り立ってるんだ

なう。いうことに気がつかねば。そう。いうことがやっぱり、ただお墓参りをしたう。気持ちがいいと気がつくだけでは、気のつきようが半分です。ね。やっぱりその、仏様に仏さまの教えを聞くと。う。心の耳が開けていた。た。と。ああ。世の中。というのは計算で成り立ってるんだ。なあ。という。ことが本當に知れてきます。よ。だからよく私は申し上げるんです。人間。というのは自分と他人。というのを分けるんです。赤ちゃんでも生まれてきてね。いく。日。女。経つと自分と他人。てのがちゃんと分るんです。よ。自他の分別をする。て。自分と他人。てのをちゃんと別に見るの。そうすると他人。というのは何か。という。自分。にとって役に立つ。か。立たん。かって。ことです。まあ、そこまで露骨に言う。と。身も蓋もない。こと。ですけど。そこまで言う。と。言い過ぎ。ですけど。でも。本質から言う。と同じです。よ。自分以外。のものは。自分。にとって。利用価値がある。か。ない。か。という。こと。で。あ。の。人。は。い。い。人。だ。て。いうんです。よ。世の中。に。善人。と。悪人。と。あり。ません。よ。どこにでも。いる。私。と。同じ。よう。な。人。が。い。っ。ぱ。い。る。だけ。なの。た。だ。その。人。が。時。に。い。い。人。に。見。え。たり。悪。い。人。に。見。え。たりする。のは。自分。の。都合。に。合う。と。「あ。あ。ん。ない。人。だ。とは思。わ。な。か。つ。た。い。と。か。ね。」(笑) 自分。の。都合。に。合。わ。ん。と。嫌。な。人。ね。え。あ。の。人……。な。ん。て。こ。う。な。て。く。る。全。部。自

分の都合というもので決めているんです。よ。ですからこの世。という。のは。良。い。悪。い。じ。ゃ。な。く。て……。人。間。と。い。う。のは。人。と。人。の。間。と。書。く。け。れ。ど。人。間。同。志。が。本。當。に。は。通。じ。合。わ。ない。融。れ。合。わ。ない。と。い。う。悲。し。さ。を。も。っ。て。い。る。の。が。人。間。と。い。う。世。界。な。ん。で。す。よ。だ。か。ら。間。と。い。う。の。が。大。事。で。あ。り。な。が。ら。間。が。成。り。立。て。な。い。と。い。う。こと。です。よ。間。が。成。り。立。て。い。る。の。は。利。害。関。係。で。成。り立。て。い。る。だ。け。で。す。よ。で。す。か。ら。よく。定。年。退職。を。な。さ。た。方。が。時。折。残。う。さ。れ。ま。す。ね。長。年。勤。め。て。来。た。け。れ。ど。肩。書。き。が。落。ち。る。と。女。だ。ね。え。ひ。ど。い。も。ん。だ。ね。え。て。言。い。ま。す。今。ま。で。は。ね。え。東。芝。の。部。長。の。山。田。さん。だ。つ。た。ん。だ。よ。た。だ。の。山。田。さん。に。な。つ。た。ら。見。向。き。も。さ。れ。な。い。ん。で。す。よ。そ。つ。い。つ。こと。を。本。當。に。如。実。に。感。ず。る。と。い。う。こと。を。お。し。ゃ。つ。た。方。が。い。ら。い。や。い。ま。す。そ。う。な。ん。で。す。よ。だ。か。ら。周。り。に。い。る。の。が。悪。い。人。じ。ゃ。な。い。で。す。よ。取。り。引。き。先。で。も。友。だ。ち。で。も。呑。み。屋。の。お。か。あ。ち。ゃ。ん。だ。て。悪。い。人。じ。ゃ。な。い。し……。だ。け。ど。や。っ。ぱ。り。い。つ。も。そ。う。や。っ。て。東。芝。の。部。長。さん。で。来。て。く。ら。い。て。金。も。落。と。て。く。る。か。ら。で。し。よ。う。今。度。は。落。と。す。金。が。違。う。て。く。る。か。ら。(笑) そ。う。な。ると。呑。み。屋。の。お。か。あ。ち。ゃ。ん。に。と。つ。て。も。イ。イ。客。で。な。く。な。つ。て。く。る。4。番。目。く。ら。い。の。イ。イ。客。に。な。つ。て。く。る。ん。で。す。よ。(笑) そ。つ。い。つ。と。こ。ろ。に。人。間。は。計算。で。自分。の。都合。が。中。心。で

出来上がるのが、この世の中ですから、良いとか悪いとかでないですよ。それでね、先祖の和泉式部の話に戻りますが……。非常にその男女の恋に奔放に生きて来た和泉式部がですね、我が子の死ということを機縁にして本当にこの悲しみの中から仏さまの教えにすがる思いで教えを聞いたと。そして年の時を経て、3回目の時に詠んだ歌が『夢の世にあだにはかなき身を知れ』お母さんあなたは自分の業のままに奔放に生きていたけれど、本当にこの世で一番大事なものは何かというところをお母さん自身でどうか求めてほしいと、そういうことを無言のうち私に教えてくれたのが娘の死であったかなと、こういだけたときに、そういう私に苦しみを与之悲しみを与えたけれど……。これはね、変な話ですけど私、中国へ行つてね、東本願寺訪中団で行った時にね、中国というのは祖先崇拜の念が強い民族なんですよ。だからご先祖の法事っていうのは丁重にするの。例えば中国に近い琉球、沖縄なんかへ行くと、墓が立派だつてくらいですよ。内地よりずっと立派な墓を立てます。そういうように先祖を大事にするっていうのは中国の思想なんですよ。その先祖を大事にする中国で、死んだ子供の法事はしないん

おかげさん

ですよ。私はビックリしちゃった。日本だとね、私の知ってる限りだと一番心を込めて勤めるのは我が子の法事です。大勢人々を呼んだりね、立派な御馳走はしないけれど、心を込めてそのご法事を勤めようと、親御さんが考えるのは我が子の法事。一番立派にするのは親の法事。だけれどあんまり心は込めてない……。笑あれは世間体でやってんだ。(笑)あの自じ子も偉いもんじゃ。まあ、これも身も蓋もない話だけど。多少通ずる所があるでしょ？あのねえ何でも人間の話なのはねえ、面白いですよ。ここから(首から)上は違ふのよ。顔つきも違つしね、ヘアスタイルも違ふ。ここから下はだいたい同じですよ。下半身とは言わないですよ。ここから下はだいたい同じ。腹の中、考えることってそう大差ないです。だから人と話をする時に一番大事なものは、自分のことを正直に言うてもらうなさい。通じます。綺麗ごとと言うかう通じないんですよ。自分の思っていることを本当におっしゃつてもらうなさいませ。必ず通じます。そういう問題だと思えます……。えーと、今何の話でしたっけ？笑冗談でなしに……。中国です(門徒さん)「あ、中国ね……先祖を大事にする中国民族において、子供の法事

はしないんです。どうしてなのかなあ。聞いてたり、親に先
立って死んだ子は親不孝ものだ。と。儒教の「孝」親
に対する孝というところが、最も大事は徳目になっ
てますから、儒教では。だから最も孝行をすべき親
に対して不孝をしたってことなんです。だから早
死をした我が子は親不孝をしたもんだから、法事
はしない。私はビックリした。日本じゃ逆ですよ。
我が子の法事を一番心を込めてなさる。だからどう
いうことから言ふとね、この和泉式部が娘の3回忌に
詠んだ歌。「夢の世にあだにはかなき身を知れ
と」。あなた自分自身を思い知りなさいと、そんな
ことを娘は私に言った訳ではないけれども、苦し
み悲しみが私に、ああ人間の業の深さということの本
当に知らせてくださり、それから仏さまの教えというの
は、その業がほどこけるってことですからね。だから、ほどこ
けた人のことを仏さまというんです。だからお念仏の
教を聞いたうどうなりますかっていったら、私が私
であるということになりまします。っていうの。私はこの
頃本当に自分がどういたしておりますので、この
ことは申し上げてます。だから自分の全き身にな
るんです。この私は、他人と比べたら形無しですよ。

他人と比べて上だとか下だとかって、こういうのをコン
プレックスっていうんです。他人と比べてじゃないです。
私という人間は天下一品なんです。今日ずーとお顔
を見ても皆さん天下一品のお顔ですよ。天下
一品って言うても一番イイって言うてないですよ。笑
どこにもないってだけの話(大笑)どこにもないです。ね
ていよ。それが天下一品なんです。天下一品の私なぞ
ですよ。そこに自信をもて。我々自信をもつといつと
他人よりマシだって時に自信をもつんです。そうじゃ
ないですよ。天下一品の私なんです。どこにもない私
なんです。このお粗末なとり得のないこの私が……
本当にそういうことです。ですから自分を生きる
自分になりきれ。これが念仏往生とか念仏成仏
ということ。で教えられるお念仏の教の一番具
体的な私における大事なことです。それで一番さ
いごのこの方の(レジュメの)Gに親鸞聖人の「念
念念文意」というものを引いておきました。称名念
仏の「称」というのは御名をとらるなり……。ね「な
んなんだぶつ・なんまんだぶつ」と称えるのは、称名
念仏っていうんです。さっき言ったお題目を唱え
る。数多く唱えると、功德を積んだことにならう

ていう時はこの字(唱)なんです。ところがお念仏を
称えるところにはこちらの字(称)なんです。これ
は違いがあるんです。お題目を唱えるのと「なん
まんだぶつ」を称えるのは世界が違いますと申
し上げたのはそういう意味なんです。つまりとなえ
る根が違います。お題目が悪いって言て
るんじゃないんです。念のため申し上げま
すけど。でこの「称」というのはどういふことかとい
いますと、「御名をとがうるなり。本願の名告り」「南無阿彌
陀仏」を口に称えたてまつることであると。又、称
ははかりという音(こゝろ)なりとはかりというはものの程
を定むることなり。と、こういう言葉が出てくる。

どうするとねえ、仏教文学で「ジャータカ」ってのがあ
るんですよ。「ジャータカ物語」とかで聞いたことあり
ますか？これはお釋迦さまの前生(ぜんしやう)の物語をテーマ
にしたものなんです。そのジャータカの中に「鷹と鳩」
の物語が出てくるんです。これは仏教文学ですから
物語です。ヒマラヤの山中で修行者が修行をしてた
と。そこへ可愛らしい小鳩が飛んで来た。修行者は
山の中で独り寂しく修行しているから飛んで来た小
鳩を可愛がって友達のように思い、エサをややね、ペシ
トとして可愛がっていた。そこへある時大きな鷹が舞

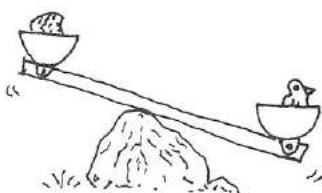
い降りて来たんです。で、その小鳩を餌として嘴で捕
んで持ち去ろうとした時に修行者が止めた訳。それ
はオレの大事な小鳩なんだから鷹よ、お前が持つて行
くことは許さん！ってこう言った訳です。そうしたら鷹
がこう言ったの。お前が何の修行をしているのか知らん
けど、偉そうな口を利くなど。オレは
今腹が減って困っている。そしてや、

と餌を見つけたんだと。お前は
良いことをしたつもりか知らん
けど、オレはひもじくて困ってた。
やと見つけた餌を持つてこうとし
てるのに、それを止めるとは、お前は偽
人格者かと。こういうふうに修行者に喰うかかったの。



そしたら修行者が、お前の言うことも一理ある。それ
ものは相談だが...と言って提案したんです。じゃあ、お
前が餌として見つけた小鳩の代りに、だ、小鳩な
んでこんな小さいんだから...小鳩の肉と同じ分量の肉を
そなたに餌として与えるということ、で手を打たなかっ
て言ったの。そしたら鷹が、お前坊主のくせに話が分
かるヤツだと。それじゃそれで手を打とうってんで、手を
打ったっていったね。これ物語だよ。(笑)そこで秤を
持ち出した。ヒマラヤの山の中に秤がある訳ないけど、ま
あ、この物語ですから...。それで秤の片方に小鳩を乗せ

たんだ。そしてたう小さい鳩だけとやはり
 こう(片寄った)なった。重みで乗せた
 方が少し下がるでしょ。で、そこへ修行
 者が自分の刃でもって股の肉を切り
 裂いて、だいたい小鳩の肉はこれくらい
 ポリネームだろうなってんで、自分の股
 の肉を切り取って、反対の秤に乗せた。けれども以
 然として小鳩の方が重いです。それでさうに自分
 の肉を切って乗せるんだけど、どうしても小鳩の方が重
 いんだね。おかしいなあ、小鳩はこんなに少ない肉で
 オレはこんなに沢山の自分の肉を切り裂いているの
 に、どうして秤がピンと平らにならないのかと、不思議に
 思った修行者が、もう万策尽きて、自分自身が秤
 にドンと乗ったってんだよ。そしてたう秤がピンとした。
 これは有名な「ジャータカ」の物語でね。仏教のものの考
 え方なんですよ。いのちの重さは絶対平等ということ
 を言っているんですよ。小鳩のいのちも鷹のいのちも
 人間のいのちも、いのちの重さというものに変わり
 はないということを表わすのがこの秤の物語。で、このこ
 とをちよとおいておいてはかりって問題ですね。「なん
 きんだじつ」といふのは、いいですか。言葉となった



仏さまのはたらきですね。その仏さまのはたらきが、この
 (秤)なんです。ところが片っ端の方に片寄って平らになら
 ないんですよ。どうして平らにならないかっていうと、さっき言
 ったように、無条件ということが承知できない、私どもの気
 位の高さなんです。人間のプライドの高さだね、お念仏
 に出遇いながら念仏にまかせきれないんですよ。この
 いう問題なんです。ですから今日は善知識の問題が
 出ましたけれど、和泉式部のように、我が子を亡くし
 た人とか、特別な挫折を味わったことのある人は、自
 分が仏法に出遇った時に、今にして思えばあの辛い悲
 しいことが、私を導いてくれた善知識であつたんだな
 とは言えるけれども、それじゃあ特別、子どももてく
 したことはないし、特別挫折したこともない、この平々々々
 として生きている私どもはどうしたら善知識に出遇える
 かな。で、その時に、あの人と言つていんじゃないんです。
 私はこの頃、久遠の善知識という言葉を使つてです。
 久遠の善知識っていうのは、遠い昔というのではなしに、
 時代を超えて誰にとってもよきひとであるというものが、宗
 祖と仰がれる親鸞聖人ってことなんです。宗祖ってのは
 浄土真宗の開祖って意味よりも、私にとっては、久
 遠の善知識でありますってことなんです。ですから今日
 このからお勤めの後で「御俗姓」のお文が並びます

が、そのお文の中で蓮如さんはこういう言葉を言っています。親鸞聖人の姿も形も滅んで今、何もなければ、何もなければ、でも親鸞聖人の言葉、言葉を耳の底に残して今に退転せざることをという。その御俗姓のお文が後程あがります。親鸞聖人の教之の言葉について、このは本当のことを言っている言葉なんです。だから親鸞聖人の教之の言葉に出遇うは出遇われないかなんです。で、そうすると親鸞聖人の教之の言葉の中で大事なのは煩悩という言葉があります。これは少し仏教を聞いた人ならば、煩悩という言葉が理解できません。我々の心と心臓三寸で思いつくことと、頭で考えることとか、心理作用とか、全部ひくるめて人間の心というものを煩悩というんです。煩悩って難しい言葉で言いますね。これ大事なんです。「煩」というのは煩わしい……これ悩みです。あなた、毎日いろいろと一生懸命生きてなされるけど、自分の人生なんと煩わしい、なんと次から次へと事が起こって悩みに果てがたいのだらう、ということをもし実感なさっているとしたら、それは何のせいだと思われませんか？他人のせいにしてはいけいんではないですか？自分の心によって自分が煩わされ、悩まされていると、あなた思ったことはないですか？というのが仏さまからの私どもへの問いかけなんです。で、この煩悩というと、凡夫というのは無明煩悩われらが身に



満ち満ちて欲も多く、いかり、はらだち、嫉み、妬む、ころろ多く、ひまなくして臨終の一念にいたるまで、とどまらず、きえず、たえずと、水、火、二河のたどにあらわれたり……という言葉が親鸞聖人にあるくらいで、欲とか、いかりとか、僻教はそういうものはどうでもいんです。そんなものは問題にしない。腹を立ていかんとか、欲をおこしていかに他人を羨ましかつてはいかんと、そんなことは言ってもせん。そういうことのないようにして、そういうのを同じ煩悩でも「分別起の煩悩」ってんです。後天的ってことです。後天的煩悩。腹が立つとか他人を羨む……。ところが人間には先天的な煩悩というものがあつた。先天的というのを、これはちよと聞いたことのない言葉ですけど、**共生起の煩悩**っていいです。共生起ってのは、生まれと共に起こつたもので、生まれながらのとか、生まれつきのこと。だから良いとか悪いではないんです。生まれながらの煩悩って何だといったら、何を考えるにも自分中心だから保身オ一と言つてもいい。これが共生起の煩悩って、いんです。だから人間のやることなすことが、徹底して、真でないと、このことを悲しまれたんです。仏

さまは。それが大事なことです。人間にだって、親の子を思う愛情とか、夫婦の愛情とか友情というよつなもの、それから我々だって気の毒な人を見ると、なんとかしてさしあげたいと思う。だから人間に真の心がない訳ではないけれど、人間の真の心というのは、不徹底・不平等だから、真実ではないっていうんです。これは例えば皆さんが経験なさるでしょう。私、孫がワ人いるんです。もう大学生と高校生でねえ。バイトなんかやてるから、時々ちよつと……ちよつとやるんですよ。おこづかい、あんまりやるとクセになるから500円くらいやるの。そうすると「わー助かった」って喜び。その喜び様がねえ、貰った子によって違うね。(笑)すごく喜びの、たいして喜びはない。人間って面白いもんだねえ。すごく喜んでくれると、又やろうかなって気になる。(笑)あんまり喜ばないともう止めておこうかなって。(笑)だから人間の親切って不平等だって、こういうことを言ってます。それから自分の孫には大事にするけど、他人の孫には、あら可愛い坊ちゃんですって言うだけの話よ。(笑)そうですね。だから自分との関わりが濃いか薄いかで相手に対する思いが変わってくるんですよ。人間は不平等なんです。不徹底なんです。だから不真実なんです。だけ

ど仏さまは、人間に真の心がないとただ批判してるんじゃない。人間に真の心はいっぱいあるけれども、不徹底、不平等であるから、トータルでいうと不真実であるところが、ほんとうに悲しいことだねと。だから仏さまから我々は悲しまれていくということ。その私を悲しめたもう、その仏さまの涙が、私のところに一粒落ちたのが「なんまんだぶつ」ということです。そういうところでひとつ、どうぞお感じになつていただきたいんですよ……。それでこの共生起の煩惱という言葉を今日は出すつもりはなかったんですが、なぜそういうことを申し上げるかというと、無条件の救いということをなぜ我々が受け入れようとしなかつていうとやっぱりプライドが高いです。平たく言う、頭が高んです。まだまだ、仏さんのお世話にはなうんでいいよと。ところがその場合はやっぱりこの死ということを全然抜きにして考えてますからね。自分の死と自分のことになってきた時になる。それはもう、お手上げのはずなんですけどね。で、時間もありませんから最後になります。私は死んだ、という言葉は言葉として成り立たない。つまり自分の死は経験出来ません。連れ合いや親の死、子供の死、他人の死は目のあたりに出来るけど自分

の死は経験が出来ないんです。で実は親鸞聖人の教で信心というのは、このことを言うんですよ。ですからレジュメの一番最後のところに書いておきました。「称名・聞法」しても、本当に頭が下がったことのないのが、この私であったと。なぜかといえば、生死の問題の根本的解決を促しているのが仏法だという一点が不明瞭だったからでないだろうか。一切の価値づけ・意味づけが無化されるのが「死」としてこの自分の死を今、体験し超克し得るのが極難信の法・本願念仏における「信の一念」である。』

仏法を聞いてですね、「なんなんだぶつ」の無条件の救いということを受け入れないのは、私がまだ自分の方で力があると思ってるからなの。そこに自分がお手上げだということが分からなからなの。頭の高さだということを申し上げたんです。だからそういう意味で、お念仏の信心をいただくという信の一念というのは、極端な言い方をすると、私が経験出来ない死を元氣な時に経験するんです。そして、死を超える。自分の死を経験し、それを乗り越えられるというのが、聞法における信の一念という問題

です。ですから無条件救済の「南無阿弥陀仏」というときには、人間の持つてるものは全て間に合わないということ。不真実ということが語られているのは、そういうところの問題だと、この頃考えておりますので、申し上げたような次第でございます。

高德寺報恩講 法話

◆講師 近田昭夫先生

『よきひとに遇う』く遇・善知識

二〇〇九年十月十七日(土)

(文責・高德寺 副住職)

《近田先生のレジュメ》

◎ テーマ よきひとに遇(あ)う …………… 遇 善知識(ぐう ぜんじしき) ……………

A) 「善知識」とは、われら門外漢を仏道の門に導き入れてくれた人。「知識」と略称することもある。宗祖も「真の知識(ちしき)に遇うことは 難(かた)きが中になお難し」と和讃されてある。

『真宗聖典』

p499、

B) 「よきひと」という言葉の出元は、『歎異抄』第2章の披瀝である。 p627、
親鸞におきては「唯 念仏して、弥陀くアミダの本願、無条件という救い>に助けられまいらすべし」と、よきひとく眼前にまします師・法然上人(ほうねんしょうにん)>の仰せを蒙(こうむ、かぶり)りて、信する他に別の仔細(しさい)なきなり。

C) 総じていう時は、真の善知識というは、諸仏・菩薩なり。別していう時は、われらに法を教えたまえる人なり。『涅槃経』には、「生死(しょうじ)の大海を度すが故に、諸仏・菩薩を大船師と名づけ、善知識という」と。

仏・菩薩のほかにも、衆生(しゅじょう)に法を聞かしめん人をば、善知識というべしと聞こえたり。又まさしく自ら法を説きて聞かする人ならねども、法を聞かする縁となる人をも、善知識と名づく。然れば、仏法を聞きて生死を離るべき源は、ただ善知識なり。

存覚『浄土真要抄』p721,722、

D) 真宗門徒の中から生まれた言葉に、「先立つわが子は善知識」とある。

愛娘・小式部内侍を喪った和泉式部が、その13回忌に詠んだ歌に、

夢の世に あだにはかなき身を知れと 教えて還る子は知識なり

E) 宗祖ご製作『浄土和讃・大經の意』 p485、

善知識に遇うことも 教うることもまた難(かた)し よく聞くことも難ければ 信ずることもなお難し。

(釈尊)一代諸教の信よりも 弘願の信樂(くがんのしんぎょう、本願に疑晴れる事)なお難し 難中之難(なんちゅうしなん、難の中でも難、至難のこと)と説きたまい 無過此難(むかしなん、この難事に過ぎたるはなし)と述べたまう。

F) 無条件救済・平等摂取の本願念仏は、極難信の法である。易行・難信(いぎょう・なんしん、行はたやすいが、無条件の仏心には容易に頭がさがらぬ)といわれて来た。

いつの時代でも、仏法聴聞に心を掛けてきた人が、必ず直面し、当惑するのが、この関門。

G) 宗祖『一念多念文意』 p545、

「称(しょう)」は、御名(みな、本願の名のり・なむあみだぶつ)をとなうるとなり。また「称」は、はかりという意なり。はかりというは、ものの程を定むることなり。

称名・聞法(しょうみょう・もんぼう)しても、本当に頭が下がったことのないのが、この私であったと。なぜかといえば、生死(しょうじ)の問題の根本的解決を促しているのが仏法だという一点が不明瞭だったからでないだろうか。

一切の価値づけ・意味づけが無化されるのが「死」。

そして、この自分の死を今、体験し超克し得るのが、極難信の法・本願念仏における「信の一念」である……と、教えられました。

2009.10.17

あ 有ること かん 難しの おかげさん です。



◎ 近田先生、有り難うございました。





3年ぶりに報恩講法話の別冊を出させて
いただいた。年々ご法話の時間を長くしてきた
こともあり、今回は一時間半という長さになって
おり、ページ数もなんと32ページ!!

おかげさん50号と同時期に発行できたこと
もなにか不可思議な感じがしてならない。

大量&読みずらいことは承知で発行しており
ますので、お手に取られた方は是非とも

最後まで味わっていただきたいと思っております。

合掌

釋義祐

発行日 2010.3.18

発行 真宗大谷派 高德寺

☎ 03-3368-6947

編集 副住職 新井義雄

FAX 03-3362-8019

〒164-0002 東京都中野区上高田 1-2-9